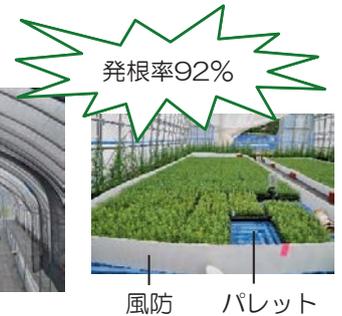
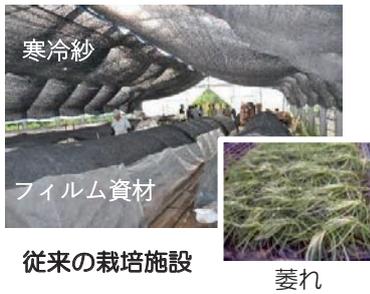


技術普及で苗木の生産量が80万本を突破！

## クリーンラーチ挿し木苗の増産技術の開発

課題名(研究期間) クリーンラーチ挿し木苗の得苗率を向上させる育苗管理技術の開発(2019~2022年度)

### 【挿し木ハウスの開発】



改良した栽培施設

#### ●失敗する原因を解明

1. 飽差\* > 9.2g/m<sup>3</sup>で萎れが発生
  2. 過度な遮光(光合成の低下、カビ発生)
- ※飽差: 飽和水蒸気圧と水蒸気圧との差

#### ●改良ポイント

- ・ 飽差が9.2g/m<sup>3</sup>以下になるようミストを噴霧(3分間隔で5秒噴霧)
- ・ 遮光率を75%に調整(苗の成長促進、気温・培土温度の抑制)
- ・ 外気を取り入れ気温上昇を緩和、ただし挿し床には風防を設置

### 【農業用セルトレイを使用した挿し木】



ココピートとピートモスを配合した  
固化培土で発根・生育が良好



土が付いた状態で移植できるため、移植後の活着・成長も向上

成果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 適期に挿し付け可能な台木の促成栽培技術を開発するとともに、挿し木の育苗に適した温湿度、光環境を保持できるハウスとその管理手法を開発しました。</li> <li>■ 移植ダメージを回避するセルトレイと野菜用移植機を用いた育苗方法を開発しました。</li> <li>■ その結果、挿し木から出荷までの得苗率が23%から60%に向上しました。</li> </ul>
成果の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術を普及することで、クリーンラーチの挿し木苗の年生産本数が研究開始前の13万本(2018年)から84万本(2025年)に増加しました。</li> </ul>
成果の公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 立松宏一・今博計(2021) パイプハウス内環境を改善する方法—冬季と夏季のパイプハウス内環境の形成要因を知る—。北海道の林木育種.64(1)</li> <li>■ 今博計ら(2021) クリーンラーチ挿し木苗の得苗率低下に影響する要因。北海道林業試験場研究報告.59</li> <li>■ 今博計・立松宏一(2022) グイマツ雑種F<sub>1</sub>における挿し付け後の穂の萎れを引き起こす影響要因。日本森林学会誌.104(3)</li> </ul>
研究担当	林業試験場 保護種苗木部育種育苗グループ、北方建築総合研究所
連携機関	
特記事項	
備考	